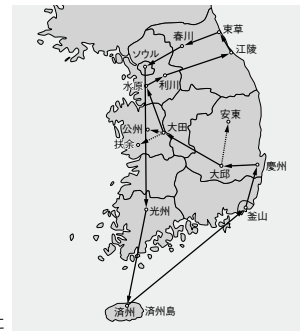


アンニョンハセヨ 韓国！

海外出張報告 1

蜂巢浩生



こんなコースで移動しました

夏休みの8月から9月にかけて、3週間ほど韓国各地を巡ってきました。正式には大韓民国なのでしょうが、以下韓国とします。目的は、ズバリ「韓国の省エネ事情を知ろう」ということです。6月8日には主要国（G8）と中国、インド、韓国の11カ国が省エネルギーを進めるために新たな国際協力の枠組みを創設することで合意したとのことですが、隣国韓国の都市環境や省エネ対策については、なかなか伝わってきません。日本建築学会大会にも韓国の研究者が多数参加されることはありますが、環境分野でも省エネに関する発表を目にしたことはありません。そこで、この機会に韓国の都市部から田舎まで、現状ではどうなっているのかこの目で見てこようと思い立ったわけです。この韓国巡りのコースを大雑把に地図に示しておきます。ソウルを起点としていったん南に下り、北上しながらソウルに戻りました。

韓国の環境問題・省エネへの関心は…

ソウルに到着した翌日、旧友に会うために韓国新幹線のKTXで光州広域市^{クワンジュ}に向かいました。光州広域市は朝鮮半島の南西部、全羅南道に八方を囲まれる形で位置する都市です。ここで、今回のコース作りにもご協力いただいた光州大^{クワンジュ}学校建築学部建築工学科の朴錫奉教授を訪ね、韓国の省エネ関連の情報をもらいました。朴先生は日大理工学部建築学科の卒業生（1988年3月卒業）です。現在学内では、学生處長として大学の運営にも携わっていらっしゃる。また韓国の太陽エネルギー学会副会長やグリーンビルディング協議会副会長などを務めている多忙な方なのですが、旧知の仲ということで忙しい時間を割いて私の行動をサポートしていただいて、大変助かりました。

さて韓国ではあちこち行ってきましたが、紙面の都合もあるので、その一部についてお伝えします。

●光州市全羅南道政府総合庁舎（現在建設中）

建設現場に同行させてもらいました。この建物の設計コンペには、朴教授も審査委員として参加されたということで、コンペ終了後は、設計に盛り込む省エネルギー対策手法について、相当もめたとのことでした。その結

果この総合庁舎には、地下570mまで杭を打ち込んでの地熱利用（これがウリのようです）、全面へのLow-eガラスの採用、雨水のトイレ排水への利用、そして太陽光発電パネルの取り付けといった、省エネ手法が採用されたそうです。地下機械室にも入りましたが、この建築規模にしては随分とごんまりした機械が据え付けられていて、いくら複数の省エネ手法を採用したからといっても少々心もとない感じを受けました。朴教授にその旨を告げると同意され、「竣工後、稼働を始めたなら環境測定をしてみよう」ということになりました。

●光州市市庁舎

土砂降りの雨の中、市庁舎を見学しました。スッキリとした立派な建物です。低層棟のロビーは吹き抜けの大きな空間で構成されていて、地元産業の紹介ブースなどが置かれています。しかし、この市庁舎は市民からの評判が大変悪いとのことでした。無駄なスペースが多く、無駄なエネルギーを消費する建物というのが光州市民の認識のようです。隣接する駐車場には、太陽光発電パネルを取り付けた複数の屋根も設置されていますが、この建物の規模からすれば十分なものではないと思われます。しかも、これ以外の省エネ対策は見当たりませんでした。省エネに対して、役所は決して消極的ではないとのことでしたが、この辺は技術的な問題よりも、市のトップとそれを押す企業との思惑に左右される部分があるとのことでした（何とも奥歯にものもの挟まったような言い方で申し訳ないです）。

見学中、市庁舎内の銀行窓口に置かれた大型液晶テレビでは、北京オリンピックの野球の日韓戦を中継しているところでしたので、市民も行員も大いに盛り上がっていました。朴教授から、二人で日本チームを応援しようかと耳打ちされたものの、とてもそんなことができる雰囲気ではなかったので、その場をすくすく退散しました。

余談になりますが、皆さんは光州事件（5.18光州民主化運動）をご存じでしょうか？ 1980年に学生と軍との衝突に端を発した出来事です。ご存じでない方は調べてみてください。実はこの市庁舎は、低層棟は5階建てで、円形の議会棟、そして18階建ての事務棟で構成されてい

て、「5.18」を表現しています。この話を聞いた時、韓国人のアイデンティティーというものを強く感じるとともに、その後の韓国滞在期間中ずっと私を捉えて離さないある種の感覚を生みました。

● 済州道エネルギー研究所

観光地で有名な済州島は、正しくは済州特別自治道といえます。「道」は日本の「県」に当たるでしょうか。風の強い土地で、岩盤の表面の土が浅いので風によって畑の土が飛ばされてしまうため、島民は古くから苦労されてきたようです。また水にも決して恵まれた環境ではなかったようです。今でこそ岩盤中の水を汲み上げて Jeju ブランドのミネラルウォーターが店頭に並んでいますが、現在も貴重であることに変わりありません。そのため火力発電が中心となっています。風が強いのですから、風力発電が盛んかと思われましたが、一部地域には建設できているものの、風車の風切り音が騒音であるとして、付近住民の反対で設置できないエリアもあるようです。潮力発電も干満の差が小さくないために取り組まれていないということでした。

● コンベンションセンター

各地のコンベンションセンターに立ち寄りてきました。普段から活発に利用されているようです。夏休み中でしたので、子供向けのイベントも盛んに行われていました。すべての施設がガラス張りのダブルスキンで、そのほとんどが Low-e ガラスや熱線吸収ガラス、熱線反射ガラスを使用しています。Low-e ガラスの普及は急速に進んでいるようです。また、屋根に太陽光発電パネルを取り付けている施設もあります。決して省エネに関心がないとは言いきれませんが、積極的に取り入れているとは言いがたい状況でした。それにもまして、基本的に建築設備が貧弱な印象をもちました。冷房しているのかと疑うよう

な屋内環境のところもあります。設定室温を高めにして省エネしているのかもしれませんが。

まだまだ紹介しきれませんが、全体的な印象として省エネへの意識はそれほど高くないと感じました。朴教授の話でも、政府は積極的に取り組む姿勢を見せているが、企業側にまだその意識が薄いとのことでした。日本語のわかる人は NHK の衛星放送から日本の省エネ事情を知り「羨ましい」と感じているそうです。でも、韓国人の人々の勢いというのは我々の想像以上のものがあります。ひょっとすると、ある時一気に普及が進むかもしれません。

韓国に行ってみよう！

食べ物は美味しいです。いろいろな所で「美味しい、美味しい」と食べていたら、現地のガイドさんに「韓国人になりなさい」と言われました。辛さにもいろいろあって、食べ続けているとその違いがよーくわかります。それに辛いものばかりではありません。素材の味を十分に生かした料理もあります。韓国人の人は焼き肉ばかり食べていると思いついでいる人はいませんか？ 韓国人の人は基本的に草食なんですよ。

ソウルの繁華街の歩道にはたくさんの屋台が並び賑わいを見せています。でもそのほとんどは会社をリストラされた人たちとのこと。とくに建設系では定年というか何というか、45歳で会社を辞めるか辞めないかを迫られるそうです。能力の高い新入社員に押し出されるように辞めなければならない状況に多くの人が追い込まれる、そんな厳しい社会の一面も垣間見ることができました。

休戦ライン周辺以外はもう行くところがないんじゃないかとまで言われました。これから韓国に行ってみようという方、ご相談に応じます。お気軽に声をおかけください。
(はちすひろお・専任講師)



① 38度線休憩所にて、② 光州市全羅南道政府総合庁舎の建設現場、③ 光州市市庁舎ロビー、④ 済州ワールドカップスタジアム、⑤ 大邸(テグ)のコンベンションセンター EXCO、⑥ 韓国はマンション建設ラッシュ、⑦ 屋台で賑わうソウル市街。でも…、⑧ 世界遺産の仏国寺(ブルグクサ)にも行きました